

みやぎ生協

● ボランティアセンターの取り組みを継続し、ボラセンニュースは Vol. 100 を迎えました

みやぎ生協では、震災直後の2011年5月にボランティアセンターを立ち上げて以降、被災さ

れた方々に寄り添う様々なボランティア活動に取り組んできました。これまでの全活動回数は

2,035回、ボランティアのべ人数16,273人、参加のべ人数77,074人と、大きな活動になってい

ます。(2014年6月20日現在)
「みやぎ生協ボラセンニュース」は、主な活動である「ふれあい喫茶」の様子を中心に、活動の様子や活動参加者の募集、被災地の現状と変化する課題などを、メンバーや全国の生協などに向けて発信し、2014年4月末にVol.100を迎えました。

生活再建がなかなか進まない中、県外、特に西日本などでは、震災に関する報道は減少し、現状が伝わりにくくなっていることから、ボラセンニュースを通じて被災地の現状を伝えると共に、これからも被災された方々に寄り添う活動を続けていきます。(生活文化部 山田尚子)



↑ボラセンニュース Vol.100記念号活動の様子やボランティア募集など、情報満載のボラセンニュースは、HPに掲載しています。
みやぎ生協「復旧・復興をめざして」URL:
<http://www.miyagi.coop/support/shien/>
←松川仮設住宅でのお茶会の様子

● 食のみやぎ復興ネットワーク『みやぎを元気にするふるまい企画』を各店舗で実施

県民防災の日を前に、6月7日(土)と10日(火)に「みやぎを元気にするふるまい企画」を実施しました。それぞれの団体が持つ商品やノウハウを使って、被災地で頑張る方々を励ました。ネットワークに参加する50団体が44企画を持ち寄り、みやぎ生協40店舗、コープふくしま2店舗で開催しました。



- 参加団体 (五十音順、敬称略)**
- アサヒ飲料・味の素・あらた・伊藤忠食品・伊藤ハムデリー・井村屋・内池醸造・エスピー食品・越後製菓・オタフクソース・カゴメ・加藤産業・カバヤ食品・キッコーマン飲料・キッコーマン食品株式会社・キュービー・協同乳業・相模屋食料・サンエイ海苔・三幸製菓・サンヨー食品販売株式会社・J-オイルミルズ・J-NET・昭和産業・高砂長寿味噌本舗・高山・デリーフーズ・東北国分・東洋水産・ナシオ・ニチレイフーズ・日本水産・ネスレ日本・はごろもフーズ・Paltac・不二家・ブルドックソース(株)・丸大食品・丸大堀内・三井農林・Mizkan・三菱食品・明星食品・桃屋・森永製菓・森永製菓東北冷菓支店・ヤマカノ醸造・山屋・UCC上島珈琲・ロッチアイス

(写真①)
みやぎ生協八幡町店(カゴメ:めぐみ野メカブ涼麺)
(写真②)
みやぎ生協桜ヶ丘店(桃屋:めぐみ野しらすごはん)

(店舗商品本部・食のみやぎ復興ネットワーク事務局 藤田孝)

生協あいコープみやぎ

● 宮城県へ女川原発安全性検討委員会の設置を申し入れ！

昨年末、(株)東北電力は女川原発2号機の再稼働へ向けた安全審査を、原子力規制委員会に申請しました。しかし、女川原発は東日本大震災で被災した原発であり、福島第一原発と同じ沸騰水マークI型である等、女川原発に固有の安全上の問題点が多数あります。原子力規制委員会とは別に、宮城県独自の検討委員会を作りダブルチェックすることが求められます。宮城県知事は、女川原発再稼働への同意権を持っていますから、尚更です。

原発に慎重・批判的な立場の専門家も含めて委員に加え、委員同士が活発な議論を交わし、独立して意思決定できる。すべての議論が公開され、県民が議論に参加できる。そのようなフェアでオープンな委員会が、宮城県にあつてこそ、女川原発の安全性が十分に検討でき、県民の命と財産が守れるものと考えます。

6月9日(月)宮城県生協連、あいコープと市民団体は共同して、宮城県に対して以上のような趣旨の申し入れを行いました。



宮城県への申し入れの様子

(申入書後掲)

今後も、私たち宮城県民一人一人が、女川原発の「地元民」として再稼働問題を考え行動していきましょう。

(専務理事 多々良哲)